

5月度衛生委員会議事録

日時：令和8年5月21日(木)	13:30 ~ 14:00	佐野市シルバー人材センター
○協議事項		
(1) 虫さされについて		
○ハチ		
・蜂の巣は土の中にある場合があるため要注意。		
・2回目の蜂さされによって起こりやすいアナフィラキシーショックに要注意。		
・咳が出る・発疹が出る・頭がくらくらする・嘔吐や腹痛等といった比較的軽い症状でもアナフィラキシーショックが要因の可能性があるため、油断せずに病院に受診するように。重い症状がでるイメージを持っている人が多いため油断しがち。		
○蚊		
・大人よりも子供の方が刺されやすい。体温が高く、汗をかきやすいため。		
・刺された部分を強く搔いてしまうと細菌が感染し、「とびひ」を引き起こすことがある。水ぶくれができて徐々に広がってしまうため治療が必要。		
・ウイルスを保有する蚊に刺された場合、日本脳炎を発病する可能性がある。ウイルスに感染した人のうち、100人から1,000人に1人の割合で発病する。発病した場合、10人に3人程度の割合で死亡に至る。予防接種が有効。ただし有効期間は3~4年程度。繰り返しの接種が必要。		
・虫除け剤の主成分は「ディート」と「イカリジン」の2つである。公園遊びや子供への使用には、肌への刺激が少なく年齢制限のないイカリジンが適している。キャンプや山林など多様な害虫がいる環境では、より多くの虫に効くディートが効果的である。		
・ジーンズ等の厚手の服の上からでも刺されてしまう場合があるため、虫除けスプレー等は素肌だけでなく服にもかけるべき。		
・蚊の幼虫であるボウフラは屋外の水場に発生するので、極力水場を作らないようにすること。		
○ダニ		
・死骸でもアレルギーの原因となる。・ベッド、布団、ソファ、カーペット等にいる。		
・天日干しだと干している途中で日陰に移動するほど実は頭が良い。そのため非効率の。		
・最も有効な方法は、布団乾燥機による熱処理と布団用掃除機ヘッドを使用した吸い込み。		
・レイコップがだしている紫外線を利用した布団クリーナーがあるが、紫外線を長時間当てないと意味がないため効果は薄いと思う。		
・噛みつかれた際に無理やり取ろうとすると頭だけが残ってしまう可能性があるため、医者に行くかマグニピッカーを使用すること。		
・ハチのアナフィラキシーショックは年齢層によって危険度が変わることはない。ただし、高齢者の方が基礎疾患を持っている可能性があるため、その点を踏まえると高齢者の方が危険度は高い。		
・新陳代謝が良い人・汗をかきやすい人・お酒をよく飲む人などは虫にさされやすい傾向にある。		
・毛虫のとげや蛾の鱗粉の場合は、石鹼で洗って流水で流す行為は悪手。		
・ポイズンリムーバーは大抵の場合、使おうとした際には既に全身にまわってしまっている場合がほとんどである。		
(2) その他		
・インフルエンザは少ない。・コロナも少ないが季節性はないため、完全にゼロにはならない。		
・現状飛び抜けてこれが多いといった感染症はない。・これからの時期は食中毒に注意。		
・感染症の流行時期は気温に影響されるが、最近では四季のバランスがおかしく、夏と冬が長く、春と秋が短いため、以前と比べて感染症の流行時期がずれてきている。		
・次回以降の日程に関して 6月23日(火) 13時30分~		